

國道視察彙報

一號國道視察自動車旅行概況追録（一）

一號國道視察自動車旅行概況を前號に掲載した所であるが十一月十七日の出發の際に於ての牧理事の挨拶は左の通である。

『今回吾が道路改良會が、一號國道視察自動車旅行の計畫を發表致しまするや、全國各地方から續々參加申込みが殺到しまして幾何もなく豫定の一百名を突破致しまして遅れた方には遺憾ながら御斷りしなければならぬといふ盛況を呈しまして道路に對する各位の熱意が窺はれ洵に欣快に堪えない次第であります。

願ひますれば大正八年故澁澤子爵其他の同志の方々で道路改良會を設立せられまして先づて本會設立の動機をなし

たる東京市路面改良計畫をば四年一月に發表し次で本會の

使命を宣揚して道路改良の必要を強調する爲。同年十一月

二十三日からと記憶するが我邦最初の交通情勢調査を二十

三四日兩日に執行するのを視察旁東海道自動車旅行を決定

したのであります。當時の東海道國道の狀態は實に貧

弱でありまして、箱根の峠などは自動車などで越すことは

出来ませぬから宮ノ下から仙石原長尾峠を経て御殿場まで

迂回し黄瀬川から東海道國道に出なければならなかつた、

多摩川、相模川、酒匂川、安倍川、天龍川などにはがた

く、する木橋がありました。富士、大井、木曾、楫

斐、長良等の各河川や濱名湖には未だ橋梁が架かつて無か

つた爲め渡船に依つた次第で自動車は汽車積みで渡したり、乗り継ぎをしたりして、どうやら自動車旅行といふ面目だけは保つたのでありますが、何分路面も悪く亦自動車の速力も出し得ないので平均一時間二十キロ位の速力でありまして今日から考へて見ますと實に不自由な且困難な旅行でありました、神戸まで實に六日を要したのであります。其後、本會不斷の努力と關係當局者の自覺と奮發に依つて漸次改良せられ前述の敷河川や濱名湖には皆立派に架橋を見るに至り、道路も亦漸次改良せられて参りましたので自動車で一氣に直通するを得るやうに相成しました。併しながら改良の延長は總延長に對し未だ其の四割弱又鋪裝延長は三割弱にしか達して居らない状態であります。

我が國幹線道路中の大幹線である一號國道即ち東海道に於てすら如斯で其他は推して知る可く識者の等しく遺憾とする所であります。

自動車交通時代と謂ふべき今日、しかも國產自動車工業が漸く其の緒に就き將に躍進期に入らんとする秋道路が叙

上の如き劣悪な状態では自動車工業の發達を期待する譯には参りませぬ。世人動もすれば自動車工業を抽象的に論議して居るやうでありますが適當の道路なくして自動車のみは發達致しません。必要のなき所に進歩は求められません此の點は國防上、産業上國家の盛衰に關する所と謂はねばなりません、本會が此度の旅行を開催致しましたのは會員諸君に改良道路の實狀、効果、未改良道路の現状を視察して其改良の急務なるを一層認識して頂き將來共に道路の改良を促進したいと念願いたしました爲であります、幸なことに我國產自動車製造の協同國產自動車株式會社及豐田自動織機製作株式會社に於ては本會の企てに絶大の賛意を表され夫々優秀なる性能を有する國產大型自動車スミダ、イスゞ、或はトヨタを提供し尠からぬ犠牲を拂つて、此の旅行に寄與せられました。

言ふまでもなきことでありますが一號國道は東京より伊勢大廟に達する道路として認定せられましたもので我國道路の大幹線たる國道であります。

近く紀元二千六百年祝典が行われんとして居まする今日、伊勢參宮國道の視察研究を國產自動車に依つて行ふことは二重、三重の意義があるものと確信致します。

今回の旅行には御覽の通り會員諸君の乗用車の外に道路の狀況、ガソリン消費量、路面の良否の差に依つて生ずる單位、時間當りの走行行程の比較等を測定する爲めに別に試験車も同行致しますが、此れは往復共に測定し其結果は整理が終り次第發表することに致します。幸に今回の視察旅行が我が國の道路改良の爲めに多大の貢獻を致しますやう冀望して已まぬ次第であります。

出發に當りまして簡單ながら是を以て主催者の御挨拶と致します。

又十九日夕宇治橋畔大鳥居前で視察團解散の際牧理事の述べられたる挨拶は次の通である。

『茲に三日間に亘つた國產自動車による國道一號路線の視察旅行をば滞りなく運び果ふせ、古い／＼大昔からの一代一度は是非に伊勢への念願に充ちた我國民的行事である御

參宮を濟ませまして、諸事好都合に這回旅行の局を結びまして、今茲に宇治橋の頭に於て目出度本視察團の解散式を擧ぐることを得ますことは、御同様に慶祝の至りに堪へぬ次第で御座います。但澄渡つた秋空にとの期待が外れて此の間生憎と小雨續きで道中の萬事が御不便のことであつたと存じまするが、大正八年の東海道自動車旅行の當時岡崎市に近づく途中で

海道の並松青し風白し

と口すさんだ私から見ますれば此の十數臺の自動車を聯ねたる一行には、時に取つての埃り鎖めの小雨をぼふる空合は慥かに神助であつたと思はるゝのであります。本來なれば高くあるべき秋空も低く垂れ籠めて其の爲め四方の眺めは妨げられたであります。格段の土砂降りといふ程のこともなかつただけに道路視察の目的は十分に達せられたことを疑ひませぬ。若し之が好天氣に恵まれたとしたなれば一臺・二臺・三臺……と次から次へと續く自動車が爛り立つる濛々たる萬丈の黄塵を浴びての一行中には必ずや悲鳴の

聲なくしては已まなかつたでありませう。少くも咽喉、鼻腔、眼球等に異狀を覺えた人の十人や五人は屹度出來たでありませう。夫れが折角用意した救護班の厄介になつた人の絶無であつたことは正に誅へ向きの好雨であり瑞雨であり靈雨であつて一に神助の現はれでなくて將た何でありませう。私は本日途すがらも

車又車 伊勢路の風清し

と口ずさみまして心竊かに感謝の祈を捧げた程でありませう。處で責めて今日の午後ばかりは御天氣に致したかつたのでありますが、併し青雲の棚引く日すら小雨をほ降るかと覺えてさゝやかな悚慄を感じる神さびた參道をば、しと、降る秋雨の中を肅々と進み入る一步は一步、一段と神氣の身に滲み入るを覺ゆるのでありました。而かも兩宮の大御前の外玉垣御門の前に額づきまして神威靈徳を仰ぎまつる尊崇と感謝と祈願の至念が、おろがみ合する拍手となつて神代ながらの木立に高く飡するとき、吾々日本人でなければ絶對に味ふことの出來ぬ即ち忝さに涙こぼるゝの情が、

わくわくと胸に高鳴つて別けて神祕・幽玄・崇高・森嚴の靈氣に身も心も浸り切つてといふより外に譬へやうのない謂はゞ神人一致の妙境に吾れ人共に今更ながら祖國愛の心と力のはためきに一段の強さを感じせられたで御座いませう。只今此處に一同別を告げて夫々地方に御歸りになりまして、時折此の刹那の靈感を追憶せられ、惟神の國に生れた吾々神の子にのみ特に許された此の傳統的精神の發揚に益々努めらるゝ一面、此の心機を延長して這回の視察により各自に獲られたる道路改良上の資料を夫々の地方に適當に應用せられて一に御國の爲めにといふ強烈な意識を以て世界進歩の大勢に遅れざるやう奮勵せられんことを祈つて已まぬ次第で御座います。

次に道路改良會と致しましては自動車旅行に無經驗といふではありませぬが諸係りの人々の殆んど總てが新顔で全く不馴でありましたがために萬事不行屈勝であつたことを茲に改めて御詫を申し上げます。

更に國產自動車株式會社の提供せられたる自動車が孰れ

も其の優秀性を發揮したることは推獎に値する所でありま
す。特に其の「いすゞ」號が神路山にせゝらく五十鈴川の
名に因みあるを見るのも何等かの瑞兆を約束するものゝ如
く、一に同會社將來の繁榮を祈つて止まぬ所であります。

又豊田自動織機株式會社の提供せられたる豊田號が機關の
過熱等若干の小さな故障はあつたやうであります。大體
に於て好成绩を収めたことは新進な當業者としては驚歎の
外ありません、尙一段の研究改善に努められて「トヨタ」
に更に「イイチ」を追加せられて東洋第一の名聲を博せら
れんことを期待する次第で御座います。

終に臨みまして十七年前の大正八年旅行の當時との比較
や此度車中からの私の視察所感などを申上げて御參考に供
したいと思ふのであります。

既に出發の際にも申し上げましたやうに、前回は東京か
らの乗用自動車で乗り通すといふことは不能であつたのが
其の後箱根や金谷、日坂等の難所の新道が開かれ又大川川
や湖口の大橋梁が架設せられて今回は大型な乗合自動車を

連ね一氣に走破することが出来たことは交通上の非常なる
進歩といはねばなりません。又路面に就ては東京箱根間や
名古屋桑名間及び其の前後は大部分に、又其の他には飛び
／＼に鋪裝が出来て居り、夫等の箇所ドライヴの快適で
あつたことは更にもいはず、今尙舊態の儘である砂利敷土
砂道の部分でも修理の技術が甚だ進歩し、路面の状態が甚
だ良好となつたことを十分認め得たのであります。前回の
旅行から十七年を過ぎた今回の私は夫だけ老境に這入りな
がら、却つて前回よりは疲労を感じる度合が少なかつたと
いふことは何よりも雄辯に此の事實を物語るものでありま
す。勿論這回の自動車旅行を迎へて地元當局の特別の御配
慮による俄か繕ひの點も諸處見受けられなかつたでもあり
ませぬが、平素からの周到なる入手が行届かなければ斯か
る路體の確かりした骨幹、斯程までな路面の脹よかな肉好
は一朝一夕に容易に得らるゝものではありません。特に輪
窪や齒堀の砂利敷の飛傳ひに山土や眞土のバインダーを用
ゆるなど慥かに砂利敷道維持法の一進歩といふべきであり

まして、夫れ等のために路面排水も不都合なく出来て居り前回と較べて遙かに優秀な通行性を示して居るなど、雨天ならでは容易に知ることの出来ぬ點であつたと茲にも私は這回の小雨日和を寧ろ禮讚するのであります。併し之を以て未改良の道路に満足せるものと誤解せられては困ります線形なり路面なり一日も早く近代道路の形質を具ふることが、一面は運輸他面は道路といふ兩者經常費の經濟を圖る上に極めて喫緊であることは申すまでもありません。更に改良済の道路に關し私の車上視察の愚感を聊か申上げますれば、主として横濱以西の道路の屈曲部に増幅(Midening)と片高(Superelevation)の施設がなされて無かつたやうに思はれましたが、之は自動車交通の安全第一主義から見て市街地等特殊の箇所を除く外半徑三〇〇米未満の曲線部には絶対に必要な構造規格として嚴守せられたのであります。又岡崎市内の歩道縁石の高さは低きに過ぎ約一〇糎と見受けましたが、之も一五—二〇糎位で無いと自動車が歩道に飛び入り易いので安全とは申されません、米國などで

は三〇糎にまで造られた例もありますますが之は又車道横斷の歩行者に取り極めて不便不都合であつて感心が出来ませぬ。此の他些細な點が尙若干ありますが省略いたしました以上は先づ私の獨眼での車上観でありますから夜目遠目の例に漏れず見當違ひの廉がないとも限りませぬ、若し左様なことがありましたなれば何卒御勘辨を御願致します。夫も皆私の老婆心から來た所の、斯くあれば斯くなるべきものとの一の例題として御聽取を願ひます。之と關聯致しまして皆さんの方でも定めし幾多の御感想がお在りのこと、存じまするが、どうか次の「道路の改良」誌上で御腹藏なく御發表を御願いたして置きます。

此の降りしきる雨の中を態々御引留め申して何となく心急かるゝ儘に辭も足らず話の筋も整はぬ勝ちであつて、定めし御聽き苦しかつたこと、存じまするが、夫にも拘りませず長々と御靜聽を煩はしましたることを感謝し尙皆さんの御健康を祈り今後に於ける御活動を期待することを特に附け加へまして、茲に本視察團解散の御挨拶と致します。

一號國道視察自動車旅行感想記

一號國道視察の斷片

長瀬 新

十月十七日。薄曇りである。午後からすつかり晴れて明日も明後日も上天氣で沿道の風景賞すべしと期待してゐたのであるが計らずも雨又雨の爲お蔭で路面の塵埃を防止し且つは吾人の遠望を遮り却つて注意力を道路にのみ注ぐに役立ち得た。

國産大型自動車にて櫻田門内逵省前を出發して日本橋なる東京市道路元標に至りこゝにいよ／＼東京市から神宮に達する一號國道の自動車粟毛が始まる。

近代都市の最尖端を行く銀座通りも最高の街路美を有するものとは云ひ難い。東京横濱間即ち京濱國道はその過大の交通量の爲著しく疲れてゐる様に見え、經驗の少かつた初期の街路築造法の故にか頗る損傷を受けてゐる。各都市

に於ける街路構造を見るに總じて新しきものは古きものより、後なるものは前なるものよりもよき構造をなすのが認められるが中には經驗済みの除外事項を設計に採擇してゐられるのもあつたが何か理由があるのだらうとも思ふ。

自動車旅行の場合、慾を言へば沿道の建築物の外観、色彩を取締るに非ざれば街路の構築或ひは路面舗装のみを以てしては快適なる氣持を満足させることができない。

六郷の橋から神奈川縣である。神奈川縣は六郷橋から約六料の區間電柱の占用を驅逐するに成功し更に各種電柱を統一すべき共同電柱の建設を實現した。その斷面形狀の過大なる爲一時建設を中止してゐる状態にあるとは云へ此點は構造技術上解決できることで、幾多の煩雜を厭はず共同電柱の建設を遂行せしめたる努力に敬意を拂ふ。六郷橋から横濱に至る區間は官民境界不明瞭なる上に歩道が沈下

し横斷が逆勾配となつてゐる有様で、之が復舊整備の一日も速かならんことが望ましい。元町橋から藤澤までは内務省施工の鋪裝幅六米のセメントコンクリート道路で大型自動車速度は市内にあつては毎時三〇乃至三五料であつたがこゝにては四〇乃至四五料となり、此程度速度なら駐車その他の妨害無き限り一車線幅三米にて間に合つてゐる。

複線道路にしるその他何れも並木の保存に苦心を拂ひ昔乍らの東海道の風致を害せざる様に設計々畫を樹てられたる誠に同慶に堪えなかつた。藤澤の先に目下施工中の道路工事があつたが側溝築造後鋪裝前の路盤排水の爲だらう。側溝の道路側の壁に一定間隔に同一寸法の孔を整然とあけてゐられるが萬全を期する撤底したやり方だと思つた。

此邊り沿道の家屋は長い庇を出してゐるので建築線が道路幅から後退してゐるかの如くに見えて、一寸二寸を争つて建築線を犯したがるセチ辛い東京とくらべて實に氣持がよかつた。

往時の史蹟を偲びつゝ行く程に、自動車に沿道家屋の庇の樋にひつかゝつて行違ひの出来ぬ程幅員の小さな由町地内をやつと抜けてやがて興津を過ぎて日暮れて静岡に至る。静岡の街路にては支道取付の歩道止石を支道區劃石より高くしてゐるのは結構だと思つたが名古屋其他でも然うであるが街渠と鋪裝の間に境石を設けてゐるのは現今東京では既にやつてゐないことだ。

その名に背かぬ靜かな静岡に一泊、次に昔大地震のあつたと云ふ尾張の國名古屋に泊つたが、地盤が道路交通の衝擊荷重を傳達して家がガタ／＼振動して長途の自動車旅行の肉體的疲勞を以てしても吾人を睡眠に誘ふことを妨げたようだ。之は道路建設者に於て考慮するよりも建築家さんの領分と思ふが何とか基礎地盤に處置を講じて呉れなければ大低こゝに泊るのを躊躇するんぢやないだらうか。

中川運河の前後の三三米道路の路面高が低い様に見えたとが別に排水に支障も無いかどうかお聞きしなかつた。

何れも見事なるランガートラスである尾張伊勢の兩大橋

を渡り三重縣に入つて沿道人家の奥床しいことと共に最も深く感じたことは技術者は縣財政の範圍内にてよくその技術の最善を盡して道路維持の責任を果して全きことであつた。殆んど砂のみをもつてよく處理せられたる參宮道路に應しいもので敬服に値するものと思ふ。

三重縣下に於ける一號國道は幅員狹隘にして前夜來の交通整理にも拘らず車輛速度を零に近くし且つ尙沿道家屋の屋根を破壊せずには行違ひが不可能なる状態であつて改修の緊急なるは言を俟たざるも、改修に先立つて待避所の設置をなされざりしは遺憾と思ふ。

最後に一號國道の重要性に鑑み改築舗装の速に完了するを祈り併せて主催者並に沿道縣市町當局に心から御禮を申上げて拙い漫筆を擱く。

無 題

三重縣度會郡沼木村長 奥山 藤 平

一昭和十一年十月十七日午前七時内務省門前を發し下向の

途に付視察なす處東京市内は特別とし先づ第一は靜岡縣の總てに於て徹底的進歩して居る事を深く感じたなり

一道路の設備計りでなく一般行政事務に至る迄も抽ずる様見受けたり

一殊に安倍川、富士川、大井川、天龍川の四大川の架橋工事見事なり

一車中付添人の説明振り満點なり

一岡崎市長殿の切り廻し至れり盡せり

一神奈川縣愛知縣等は克く似て居る様感じたり

一三重縣に於ては伊勢大橋次で御幸道路位にして他に見るべきものなき様感じたり

一號國道視察團に参加して

富山縣廳 土木 課 近藤 健 武

東京市から、神都宇治山田市迄、觀光の國神奈川縣、産業に風景に中部日本に誇る靜岡縣、名古屋市を擁する愛知縣。畏くも天照大神の鎮まります三重縣この一府四縣を結

ぶ、延長五〇〇〇軒の一號國道は正しく中部日本の大幹線道路である。

道路改良會が、多大の犠牲と努力を拂つてこの國道を、國産自動車に依つて走破するの舉を敢行されたことは、誠に機宜に適したことであり且又之れに参加の機會を得た我々は實に幸運であつた。

視察旅行の三日共曇又は雨天で、湘南、箱根、富士の景勝を満喫することは出来なかつたが、砂塵の猛襲は受けずに済んだ。

内務省土木出張所及參縣から戴いた記録を綜合すると既改築延長は全長の約三九%、舗裝延長は約二六%であつてまだ仕事はこれからであるの感が深い。然し著大なる橋梁は殆んど既に改築済みである。路面舗裝は京濱國道を除きセメント系舗裝が特に多い。車上から見たので舗裝面は餘りよく判らなかつたが眼立つ様な龜裂はなかつた。内務省横濱土木出張所施工の神奈川縣鎌倉郡大正村地内の延長二〇軒に亘る複線道路は實に美しい、中央に昔を偲ぶ松並木

を残し根元の青々とした芝生、これを狭んでなだらかにカーブした、二條の白線を引いた様な道路は、誠に一幅の名畫であり車馬を通すには勿體ない様だ。道路の路線美から言へば適當なカーヴの使用は必要なものである。この複線道路の古典美は橋梁に於ける伊勢大橋三重縣施工、榊斐長良兩川に架る延長一、一〇五米のランガー鋼拱橋の長大な鋼部材の構造美と共に東海道路路橋梁美の東西の双壁であらう。

視察中慾を言へば、もう少し時間が欲しかつた。技術者である我々は、舗裝路面も少し位は歩いて見たかつたし、橋梁も、側面から、又下側から仰いで見たくもあつた。構造も判らず橋梁上を走り去るのは實に淋しいことであつた。

砂利道の部分は各縣共維持が實によく行届いて、當日は雨天であつたが凸凹らしいものすら、見えす只、愛知縣二川町あたりは土質に粘土多く、泥濘を極めて居たのを見た位であるが、之を舗裝濟の部分に較べると、自動車の走行速度、衝擊状態、乗り心地に於て格段の差があり、路面舗

裝の有難みを沁々と感ずるのである。路幅狹隘な個所での自動車走行ののろまさ、鐵道軌道との平面交叉點で遮斷機の上るのを待ついらだたしさも耐らない。特に豊橋市内の迷路、四日市市内の隘路、名古屋市熱田驛附近の東海道本線及名古屋鐵道などの踏切が三四ヶ所、人家連擔の眞只中にある等は實に交通上の痛でなくて何であらう。一日も早く改築除去され度いものだ。

道路の狀況及沿道の名勝、舊蹟、其れに關する綺談珍談は、造詣深い地元各縣市の關係の方々之の懇篤な御説明を得て實に愉快に知ることが出來て車中いささかの退屈をも感じなかつた。京濱國道神奈川縣管内に道路數内無電柱區域がある。神奈川縣の心臟の強さは、流石の遞信省をへコマして、路面から、電柱の影を没せしめたので實に氣持ちがよかつた。静岡縣、廣はう一萬五千町歩の牧の原茶園の廣大さもさることながら、この高臺から、金谷町及大井川橋梁を俯瞰する展望も實にすばらしい。静岡縣の西端、愛知縣界近く潮見坂がある、太平洋の怒濤を脚下に見下ろす懸

涯の地だがこの道路はその昔湯淺倉平氏が静岡縣知事の頃、政争に業を煮し只管縣民の福祉のため、原案執行を以て改築した曰く付きのものだなどと説明をきくと面白い。愛知縣の有松町邊りから名古屋に入軒餘の多種の試験鋪裝を施工した區域があつたが、材料がなく詳しいことは判らないが、その後の成績が知りたい。

一號國道には相當著大且有名な橋梁も少くないが愛知縣施工の木曾川に架する尾張大橋と前記三重縣施工の伊勢大橋は橋種同一だがその型式の斬新さと構造美の雄大豪宏さに於て本路線中隨一のものであらう、昭和八年十月尾張大橋成り昭和九年五月伊勢大橋成る迄、此處は渡船で、木曾、揖斐、長良の三大川を渡つたのださうな。この兩橋梁の出現は實に一號國道改良史上の一大エポックでありこの架橋の爲三重、愛知兩縣の拂つた犠牲と努力の大いさは想像に餘りあると共にこの兩橋の一號國道交通上に演ずる役割の偉大さは蓋し計り知ることが出來ないであらう。

四日市市を西に行き三重郡は永村追分から、二號國道は

分岐して鈴鹿の山を越え、京都大阪へと伸びて行く。追分から一號國道は純粹の參宮國道となり宇治山田市に達するが、松並木もなし路幅狹隘國道とは名許りで二號國道の美しい松並木が延々鈴鹿の山迄續くのを見れば上井土木課長のお話ではないが、その昔のことどもが思はれて少なからず義憤を感じる。

十九日午後一時過ぎ宇治山田市着、晝食時伊勢音頭の餘興に興じ後、心身を新にして伊勢大廟に參拜した、この日降雨まだ止まず神域は殊更神々しかつた。

内外官の參拜を終り宇治橋畔で牧理事の解散の辭あり、こゝに長途恙なく三日間の行を終へたのである。

使用した國產自動車は全行程五〇〇餘料連日の酷使に耐え、さしたる故障の起らなかつたことは、我國自動車製作工業の進歩發達を示すもので國策上慶賀すべきことで、且又國產自動車の發達は道路の改良機運の醸成に拍車をかけるものといふことが出來やう。

今回の視察は、道路改良上誠に意義深いもので今後とも

この種の視察旅行及道路大會等會合を開催し大いに會員の見聞を廣め、又其の聲をきき、一般社會に道路改良の觀念を注入し認識せしめ、將來の道路改良の資に供せられたいものである。最後に經過地各縣の關係官の方々の御あつせん。特に神奈川縣の渡邊さん、靜岡縣の市川さん、愛知縣の某さん、三重縣の西岡技師、上井課長の御丁寧な御案内に對して、且又沿道町村の皆様の熱心な御歡迎御聲援に對して深甚の感謝の意を表する。以上

多方面からの多種多様の感想記は這同の旅行を一層効果付けるもので参加された方々には勿論一般にも少からざる裨益を與へらるゝことを本誌記載の感想記を一讀して感ずる次第であります、續々寄稿せられんとを切に希ふてやまぬ所であります。(係)